

第12章 道の駅

北岡 勇磨

12.1 道の駅とは

道の駅は地域の核として誕生した。長距離ドライブや、女性・高齢者のドライバーが増加する中、交通の円滑な流れを支えるため、一般道路にも安心して利用できる休憩施設の整備が求められている。また、休憩施設では、地域の文化・名所特産品などを活用し多様なサービスを提供することが望まれている。これらの施設ができることで、地域の核が形成され、道を介した地域連携が促進されるなどの効果が期待される。こうしたことを背景として、道路利用者のための「休憩施設」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして道の駅をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」、の3つの機能を併せ持つ休憩施設道の駅が誕生した。道の駅は全国に1079ヶ所あり、北海道には115ヶ所設置されている。

12.2 上川管内南部の道の駅

12.2.1 自然体感しむかっぶ（占冠村）

道の駅内のショッピングモールにはレストラン、そば屋、定食屋のほかにテイクアウト専門店がある。お土産では占冠村の特産である山菜製品のほか、職人がひとつひとつ丁寧に仕上げている「しもかぶ工房」の木工作品の展示・販売を行っている。また、道の駅内にあるポケットパークでは、一風変わった噴水が噴き出す。村花「カエデ」のマーク入りプランターが観光客をお迎える。さらに、巨大な「自然体感寒暖計」もある。

また、周辺には赤岩青巖峡や（株）星野リゾート・トマムがある。赤岩青巖峡では、赤、青などの奇岩・巨岩で織りなす自然の造形が美しい赤岩青巖峡である。（株）星野リゾート・トマムは、年間を通じてリゾートライフを満喫できる本格的なリゾートエリアである。広大なエリア内のシンボルのザ・タワーでは雲海を見ることができる。

図 12-1 自然体感しむかっぶ



出所：北の道の駅

12.2.2 南ふらの（南富良野町）

道の駅「南ふらの」は国道 38 号線に建設されており、ランドマークは、カヌーの舳先をイメージしたユニークな形になっている。館内の中心、玄関正面には、空知側に生息する 1m 級のイトウやアメマスが、自然に近い状態にレイアウトされた大型水槽で悠々と泳ぎ、右手のレストラン「ごはん家ラーチ」は、安くて美味しい豊富なメニューを提供していた。左手の売店では、富良野地方産の男爵馬鈴薯を原料とした、全国で人気の「バタじゃが」など、南富良野産の農産加工品や飲料、お菓子類、木彫品、陶芸品、手芸品のほか、富良野や北海道産のお土産品が並んでいる。建物の横から裏手にかけて、ラベンダー畑から芝生が張り巡らされている広い公園が続く。1988 年に物産センターが建設され、当時は南富良野町で採れるジャガイモやアスパラなどの農作物をそのまま、国道を車で通る人に宣伝して、売買を行っていた。「道の駅」の認定を受けたのは 1993 年で、日本で「道の駅」の制度ができた年で、北海道では 3 番目に登録された。

図 12-2 道の駅南ふらの



出所：北の道の駅

12.2.3 あさひかわ（旭川市）

道の駅「あさひかわ」は、JR 旭川駅の南側に位置し、旭川から富良野を経由して日高地方へ向かう一般国道 237 号に接していて、JR 旭川駅からもクリスタル橋を渡ってわずか 5 分とアクセスがとても便利になった。

道の駅「あさひかわ」では、豊富な地場産品を販売する売店、ご当地グルメが味わえるフードコート、観光案内など道北の食と文化を発信している。さらに、周辺には郷土博物館がある「大雪クリスタルホール」、夏には体育館、冬にはアイスリンクなど様々な催しが行われる多目的施設「大雪アリーナ」、三浦綾子作品「氷点」の舞台となった「外国樹種見本林」や「三浦綾子記念文学館」等があり、旭川の歴史や風土に触れることができる。

図 12-3 道の駅あさひかわ



出所：北の道の駅

図 12-4 大雪アリーナ



出所：旭川観光コンベンション協会

12.3 日高管内の道の駅

12.3.1 樹海ロード日高（日高町）

道の駅「樹海ロード日高」は、札幌・帯広方面をアクセスする国道 274 号と、旭川・苫小牧方面をアクセスする国道 237 号のちょうど分岐点に接している。峠の出入り口にあたるので、休憩や食事はここで済ませるのがかしこいドライブのしかただそう。道の駅の建物のなかにはお土産を扱うリカーショップやそば処があり、駅の建物に隣接して、和洋食のレストランもある。また駅の隣には、町営の自然史博物館の日高山脈館があり、日高ヒスイの原石や日高山脈のジオラマは必見である。お土産コーナーには、やまべを使った商品をはじめ、菓子類が人気の津田商店があり、充実した品揃えでお土産選びにこまるほどである。スイーツでは、さわやかでフルーティーな洋ナシフレーバーが珍しい「ラ・フランスソフトクリーム」が 250 円で食べることができる。

図 12-5 樹海ロード日高



出所：北の道の駅

12.3.2 サラブレッドパーク新冠（新冠町）

太平洋に沿って走る日高路で、海と山脈に囲まれてのどかな牧場風景が広がるなか、新冠町市街地でひととき目立つランドマークタワー「優駿の塔」その隣が道の駅「サラブレッドロード新冠」である。施設内には物産館、フラワーショップ、レストランなどを備え、観光の拠点として利用するのがよいだろう。物産館では、新冠産駒をはじめとする馬に関するグッズを販売し、かぼちゃのあんが入った「ばふん饅頭」やレコードをイメージした「レ・コードクーヘン」が人気商品である。また、全国から寄贈されたレコードを提示した隣接の「レ・コード館」では懐かしいあの名盤に会えるかもしれない。

図 12-6 サラブレッドパーク新冠



出所：北の道の駅

周辺の見どころポイントとして、にいかっぷホロシリ乗馬クラブ、新冠温泉レ・コードの湯などがあげられる。にいかっぷホロシリ乗馬クラブは、太平洋を望む丘という最高のロケーションのすばらしさ、充実した施設にコースメニュー北海道だけでなく道外にもその名のしれたクラブだ。新冠温泉レ・コードの湯は、日高管内初の温泉で知られている。判官岬と太平洋の絶景を望む丘にそびえる山小屋風のログハウスで、夜に海に瞬く漁火や判官岬に沈む夕陽など四季折々の新冠を楽しめる。

12.3.3 みついし（新ひだか町）

道の駅「みついし」は、新ひだか町（旧三石町）のマリンレジャーの拠点・三石海浜公園の中にあり、敷地内にはみついし昆布温泉「蔵三」もある。三石海浜公園は充実した施設で注目されるオートキャンプ場と海水浴場もあり、道の駅自体もオートキャンプ場のセンターハウスも兼ねている。ここでは、オートキャンプ場の受付も行うほか、コインシャワーやコインランドリーも完備されている。また、センターハウスの横には、三石特産の昆布などの海産物の販売所があり、観光客でにぎわっている。周辺には、円昌寺がある。5月から6月にかけて、お寺の入り口に続く道路沿いに咲き誇るヤマツツジと、樹齢90年を越える赤松の並木道が美しいコントラストを描いている。

図 12-7 道の駅みついし



出所：北の道の駅

12.4 十勝管内の道の駅

12.4.1 なかさつない（中札内村）

道の駅「なかさつない」は、国道236号と道道清水大樹線の分岐点に位置している交通の要所で、南十勝観光の入り口になっている。駐車場に隣接して中札内の農業や観光を紹介するインフォメーション施設・カントリープラザが配置されている。カントリープラザでは、新鮮な地元の食材を使ったメニューが並ぶレストラン「ウェザーコックフェ」がある。日本で唯一の無殺菌牛乳やチーズ・スモークチキンなどの特産品をそろえた売店がある。村を紹介する写真の展示や期間的なイベントも行われる多目的コーナーと調理実習室が併設されている。カントリープラザ以外にも花水山では、地場産の鶏肉料理も扱うカレー屋があり、食事には困らない。カントリープラザ周辺には緑と季節の花に包まれた豊かなアグリパークがあり、ゆっくりとくつろぐことができる。また道の駅には、豆資料館が併設されており、楽しく学ぶことも出来る。豆資料館は、架空人物「豆畑拓男」の自宅兼研究所を想定した豆の資料館で、楽しみながら豆に親しめるように体験型の資料も多く用意されている。周辺には、中札内美術村がある。北の大地に魅せられた二人の画伯の記念館・美術館が、柏林のなかにたたずんでいる。坂本直行記念館は、六花亭のパッケージデザイ

図 12-8 道の駅なかさつない



出所：北の道の駅

ンで有名な氏の絵画を展示している。相原求一朗美術館は、北海道を長く描き続けてこられた画伯の広尾線最後の日を描いた「幸福駅 2月1日」や「北の十名山」が展示されている。

12.4.2 おとふけ（音更町）

道の駅「おとふけ」は、まるで建設途中かと思えるような、屋根と壁面のブルーのパイプで覆われた建物である。道東自動車道音更インターや国道 241 号などの主要道路からのアクセスが便利である。しかし、帯広市街から十勝大橋を渡って、木野市街をぬける 241 号帯広北バイパスがあるので注意が必要だ。1 階の特産センターで豆・乳製品・ジャムなど音更町の特産品はもとより、十勝管内や道内の主要地場産品、また姉妹都市である岩手県軽米町の特産品も展示販売している。2 階にはレストラン「中華バイキング桃花」がある。ランチ（980 円）、ディナー（1180 円）とともに食べ放題のバイキング形式になっている。本格中華料理が常時 30 品以上並ぶ。コーヒー、ソフトドリンクは飲み放題となっている。音更町の特産物、音更大袖大豆を使ったプリンもある。お持ち帰り用の弁当箱は、ふたが閉まるまでつめ放題で 650 円となっている。また、5 月・10 月の第 2・4 日曜日の朝に開催されるおはよう青空市では、地元の朝採り野菜や手芸・工芸・園芸・陶芸品・リサイクル品など多彩な店が出店される。十勝川温泉ガイドセンター南側の広場にて北海道遺産「モール温泉」の「足湯」が無料で楽しめるので、行かれてみてはどうだろうか。

図 12-9 道の駅おとふけ



出所：北の道の駅

12.5 注目の道の駅

2012 年 3 月 24 日のじゃらん HP 上で「ハズさない道の駅はどこ？」という記事が UP されていた。そこで栄えある 1 位となった道の駅が、浜頓別に行く道中にある「もち米の里☆なよろ」である。最後にこの名寄市にある「もち米の里☆なよろ」について調べ、第 12 章の締めくくりとする。

道の駅「もち米の里☆なよろ」は、国道 40 号線に位置し、名寄市の南の玄関口として豊かな田園風景にたたずむ道の駅だ。名寄名産の「もち米」にこ

図 12-10 もち米の里☆なよろ



出所：北の道の駅

だわった特産品や「安全・安心・新鮮・安価」を売り物にした地元農産品をはじめ、地場産の食材を使った食事を提供するレストラン「お食事 風の寄り道」がある。また、様々な情報発信基地として地域 FM「Air てっし」を利用して名寄市及びその周辺の情報を発信している。特産品販売コーナーでは、人気のクリーム大福・ソフト大福もち、いちご羊羹、そば、など名寄の名産・特産を販売しているほか、加工展示室では、地元産もち米を使った自動餅つきの実演を行うほか、地元産そばを使い製粉して販売を行っている。人気のソフト大福は1個126円で、全部で21種類が販売されている。一番人気は幅広い年齢層に好まれる塩豆である。やわらかいのが特徴のお餅は地元のはくちょう餅を使っている。レストランでは、釜雑煮とそばのセット(980円)が人気だそうだ。周辺には、ピヤシリスキー場や北海道立サンピラーパークがある。ピヤシリスキー場では、雪質が自慢の全9コースのほか、スノーモビルランドでは、ピヤシリ山頂986mから白銀の世界を体験できる。北海道立サンピラーパークは、なよろ健康の森に隣接されており、冬季は屋外カーリング場を備え、夏季は卓球、バドミントン、ソフトバレーなどの軽スポーツが楽しめる。屋内には、子どもが楽しめる大型コンビネーション遊具、屋外にはフワフワドーム等がある。

図 12-11 ソフト大福



出所：トラベルノート

参照 HP

- ・北海道北の道の駅

<http://www.hokkaido-michinoeki.jp/index.html>

- ・一般社団法人旭川観光コンベンション協会

http://www.asahikawa-cb.gr.jp/guide/fa_01.html

- ・トラベルノート

<http://travel.kihon.jp/japan/7177>

- ・北海道じゃらん HP

http://www.recruit-hokkaido-jalan.jp/jalan_de_go/2012/03/001902.html